

済生会長崎病院 薬剤部紹介

🍷 病院紹介 1938年に設立された、急性期医療を担う地域中核病院

病床数:205床(全個室)

診療科: 救急センター・総合診療科・内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・腎臓内科・人工透析科・内分泌糖尿病内科・小児科・外科・消化器外科・脳神経外科・整形外科・産婦人科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・泌尿器科・放射線科・麻酔科・皮膚科・リハビリテーション科

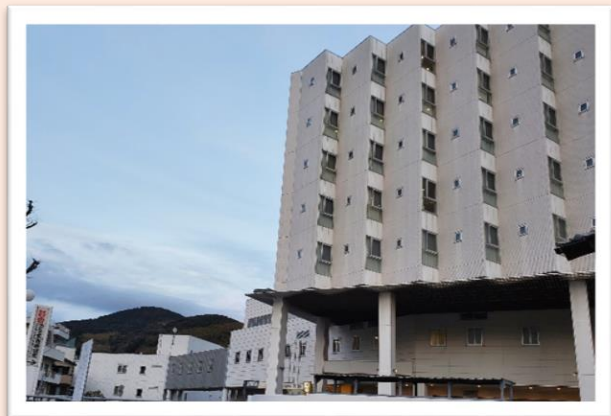
各階:4階 小児科・産婦人科・腎臓内科

5階 消化器内科・外科・脳神経外科

6階 呼吸器科・循環器内科

7階 地域包括ケア病棟

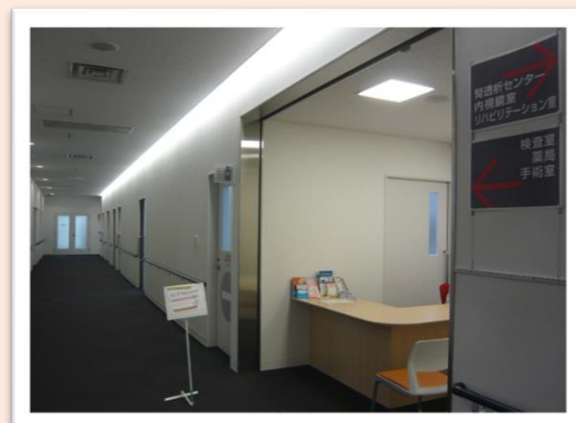
8階 整形外科・総合診療科・内分泌糖尿病内科



🍷 薬剤部紹介(診療科棟3階にあります)

薬剤部は、薬剤師としての専門的知識を活かしチーム医療に貢献することにより、患者さんの薬物治療の向上に寄与することを目的としています。

病気の治療に欠かすことのできない「薬」を安全かつ効果的に使用するために、「調剤」「服薬指導」「医薬品の保管・管理」「抗がん剤の無菌調整」「医薬品情報の収集と提供」等の業務を行っています。臨床現場でのオールラウンダーな薬剤師を目指すのに最適な職場です。



【スタッフ】

薬剤師:14名(非常勤1名)

(R5.4 入職予定3名)

補助員:1名



【主な業務内容】

●調剤(内服・注射)業務

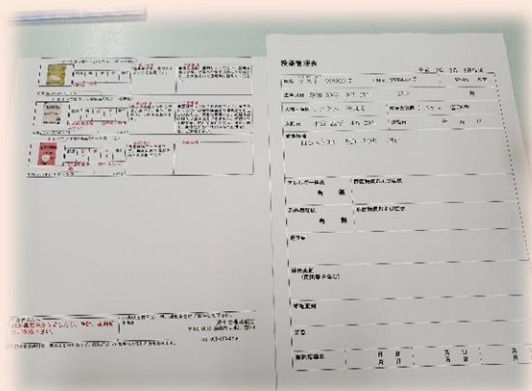
当院では入院・外来患者さんの薬を調剤しています。電子カルテによるオーダリングシステムを導入しており、発行された処方箋・薬袋をもとに「飲み合わせ」「投与量」「飲み方」等をチェックし、調剤を行っています。また、必要に応じて錠剤の粉碎や自動錠剤分包機を活用し患者さんが自己管理しやすいように一包化も行っていきます。調剤室内は似通った名前や規格の異なる薬剤の配置場所を離すなど調剤過誤を起こさないような環境づくりを行っています。

注射薬の調剤は患者さん毎、1施用毎にセットして払い出しています。



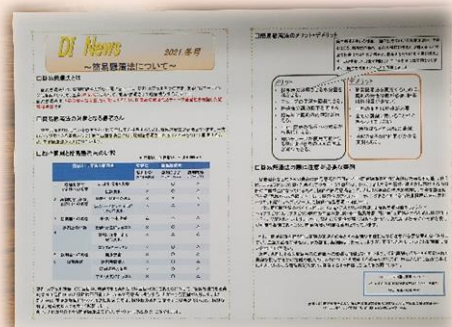
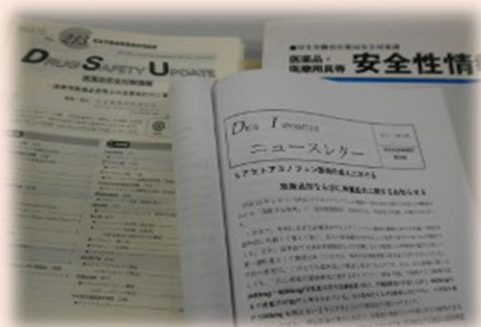
●薬剤管理指導業務

各病棟に3名の薬剤師を配置しています。入院時には、持参薬・自宅での服薬状況、副作用・アレルギー歴等の確認を行っています。入院中に使用する薬については、薬剤情報提供書を用いて薬効、用法用量、副作用等について説明し、服薬状況の確認や副作用症状の発現等を確認しています。患者さんから得られた情報は、病棟カンファレンスで医師・看護師等の医療スタッフと共有し、より良い医療が提供できるように努めています。



●医薬品情報(DI)業務

様々な医薬品情報の収集・管理、DI ニュースの発行をしています。また、収集した情報は整理し、院内ネットワークを利用して医療スタッフへ情報提供しています。



●医薬品の保管・管理業務

院内において、医薬品の購入と保管、病棟・外来・手術室への医薬品供給を行っています。手術室で使用した薬剤は、早出勤務の薬剤師が補充をしています。また、外来・病棟・手術室に配置している救急カート内の医薬品の使用期限のチェックも定期的に行っています。

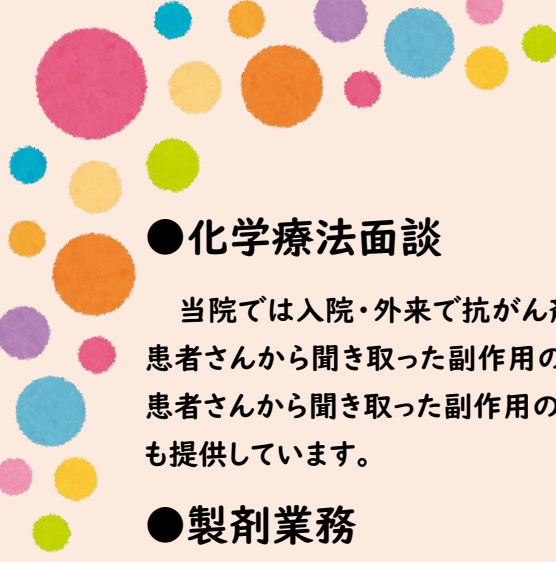
品質管理や使用期限管理、帳簿管理を行うことで向精神薬や毒薬・劇薬、血液製剤など様々な法的規制を受けている薬品を適正に管理しています。特定生物由来製品については、患者さんのお名前、ご住所、医薬品の名前、製造番号、投与量を 20 年間に亘って管理しています。



●抗がん剤調製業務

抗がん剤の処方は「投与量」「投与速度」「投与期間」等について抗がん剤プロトコールシステムで適正に使用されるよう管理されており、レジメン管理は薬剤師が行っています。抗がん剤の調製は、安全キャビネットの中で安全かつ衛生的に行われます。





●化学療法面談

当院では入院・外来で抗がん剤による化学療法を行っており、薬剤師による面談を行っています。主に患者さんから聞き取った副作用の発現状況に基づいた情報について医師への処方提案を行っています。患者さんから聞き取った副作用の情報は、「がん薬物情報提供」に記載してかかりつけの院外調剤薬局へも提供しています。

●製剤業務

市販されていない製剤を院内製剤として調製し払い出しを行っています。

●薬物治療モニタリング(TDM)業務

当院では TDM を行うことが推奨されているバンコマイシン注に関して、シミュレーションソフトを用いて初期投与設計、採血後の血中濃度解析を行い、その内容をもとに医師へ投与量の提案を行っています。

●麻薬管理業務

医療用麻薬の納品、調剤、廃棄等を行っています。麻薬管理者により購入や、使用方法、使用量をはじめ、使用後の残薬と空のアンプルの確認を行うなど、医療用麻薬を厳重に保管・管理し、適正に施用されるように厳密な管理を行っています。

●入退院支援センター業務

入院後に手術やヨード系造影剤の使用予定がある患者さんを対象に、入院前の外来で現在服用している薬の確認を行い、休薬すべき薬剤と休薬期間の情報を提供しています。



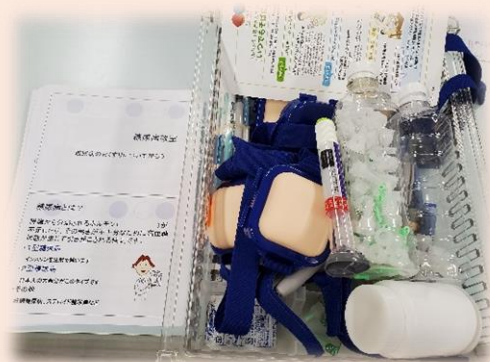
●その他

【院外処方疑義照会】

調剤薬局から院外処方に関する問い合わせは薬剤部が窓口となり、各外来へ問い合わせを行います。調剤薬局との疑義の記録は記録用紙へ記入しています。

【糖尿病教室】

糖尿病教室では、医師、看護師、薬剤師、栄養士など多くの職種が関わり、患者さんへの指導・教育を行っています。薬剤師は薬の効き方や服用する上での注意事項、インスリン自己注射の手技や管理、低血糖やシックデイの対処法の指導を行っています。



【学生実習】

薬剤部学生の長期実務実習を受け入れています。3名の認定実務実習指導薬剤師を中心にモデルコアカリキュラムに沿った実習に加え、臨床現場での薬剤師の職能、職務を実感できるよう薬剤部全員で実務実習をサポートしています。

【委員会活動】

薬事審議委員会、医薬品安全管理委員会、医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、NST委員会、輸血委員会、クリニカルパス委員会、化学療法委員会、情報システム委員会、褥瘡委員会等の様々な委員会に参加しています。

【周術期管理】

薬剤師は術前、術中、術後といった周術期において医師、看護師等の多職種と連携しており、主に患者の服用中の薬剤、術前中止薬の確認、術中・術後における薬剤の投与量の確認等を行っています。

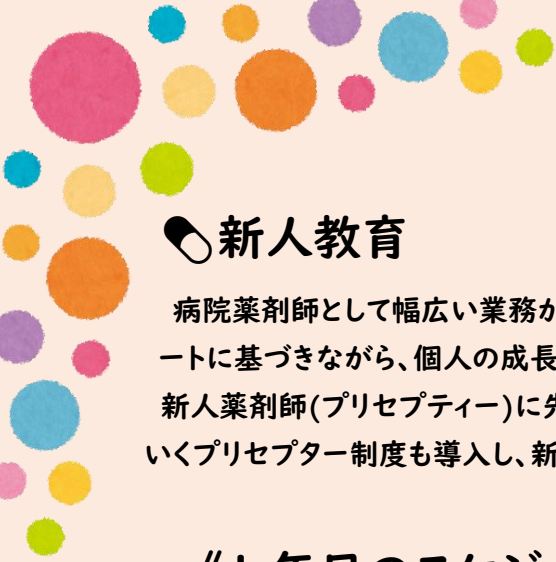
〔教育・研修〕

・院内研修

全職員を対象に院内感染対策や医療安全、地域包括ケアの症例報告会など様々なテーマで研修を実施しています。また、薬剤部内では定期的に新薬や新規採用薬の勉強会を開催しています。

・院外研修

長崎県病院薬剤師会、製薬会社、全国済生会グループが主催している様々な研修会に参加することができます。



🎓 新人教育

病院薬剤師として幅広い業務が学べるようスケジュールに沿って教育を実施しています。個人チェックシートに基づきながら、個人の成長レベルに合わせて開始時期や習得目標期間の調整を行います。

新人薬剤師(プリセプティー)に先輩薬剤師(プリセプター)がつき一定期間マンツーマンで指導・教育していくプリセプター制度も導入し、新人薬剤師が安心して働くことができる環境づくりを心がけています。

《1年目のスケジュール(多少前後することもあります)》

4月・5月	6月	7月	8月	9月
・新人研修 ・内服・注射調剤	・早出開始 ・抗がん剤調製開始 ・内服・注射調剤監査	・土曜日注射当番開始	・夜勤開始 ・日直開始	・病棟業務開始

